


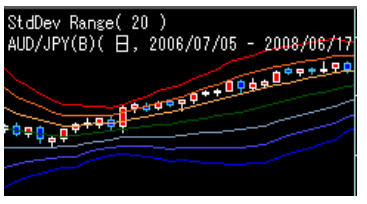


ダイワのトレーディングボード365FX テクニカル指標一覧

No.	分類	指標名 (イメージ)	概要	使用方法・見方
1	トレンド系	01.移動平均 	移動平均線は相場の方向性などを見るためのトレンド追随型のテクニカル指標です。また移動平均線をサポートライン、レジスタンスラインとして使用することもできます。	<p>価格と移動平均線の位置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・価格が移動平均線よりも上にある場合、買い方には強気局面(売り方には弱気局面) ・価格が移動平均線よりも下にある場合、買い方には弱気局面(売り方には強気局面) <p>移動平均線の向き</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動平均線が上向きの場合、買い方には強気局面(売り方には弱気局面) ・移動平均線が下向きの場合、買い方には弱気局面(売り方には強気局面) ・移動平均線が横這いの場合、小動き局面
2	トレンド系	02.指数平滑移動平均線 	単純移動平均よりもトレンドを追うのに優れています。直近のデータにより大きな比重を置くため、単純移動平均よりも早く動きます。	<p>基本的な見方は、移動平均線と同様です。直近のデータにより大きな比重を置くため、単純移動平均よりトレンドがいち早く現れます。</p> <p>例)</p> <p>10日間を選択した場合、K=0.18になります。つまり、今日の価格の18%を平均に算入させて、のこり82%は過去のデータを使うということになります。</p>
3	トレンド系	03.ボリンジャーバンド 	1980年代前半にジョン・ボリンジャー(John Bollinger)が考案したテクニカル指標です。統計学を応用したチャートで、中心線から外側に向かって ± 1 (第1標準偏差)、 ± 2 (第2標準偏差)、 ± 3 (第3標準偏差)の線を引き、現在値の位置や方向性で投資判断を行います。	<p>正規分布においては、全体の68.27%が平均値± 1内に、95.45%が平均値± 2内に含まれるという性質があるため、「統計上、市場価格は± 2の範囲内で変動する」と想定します。</p> <p>買いシグナル:「-2」ラインを割るほどに値が下がったが、そこから反発して上昇しはじめた時</p> <p>売りシグナル:「+2」ラインを大きく超えた、もしくはそこから反落して「+2」ラインから離れた時</p> <p>・上昇・下落トレンド形成時は、移動平均線と± 2のライン間を動くと言われてています。</p>
4	トレンド系	04.パラボリックSaR 	J.W.ワイルダー(Welles Wilder)が考案した、SaR(ストップ&リバースポイント)と呼ばれるラインを用いたトレンドフォロー系テクニカル指標です。パラボリックには「放物線状の」という意味があり、SaRが放物線を描いていることから、パラボリックと呼ばれます。描かれた放物線と実際の価格の交差するポイントが売買転換点を示します。	<p>株価が上昇トレンドにあるとき、パラボリックSaRは価格の下をたどります。一方、下降トレンドにあるときは、価格の上に位置します。そしてトレンドの転換に伴い、パラボリックSaRの位置がグラフの上下を移動します。</p> <p>買いシグナル: 下降トレンド時で、パラボリックSaRが高値を下回った時</p> <p>売りシグナル: 上昇トレンド時で、パラボリックSaRが安値を上回った時</p>



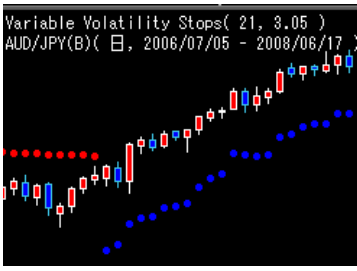
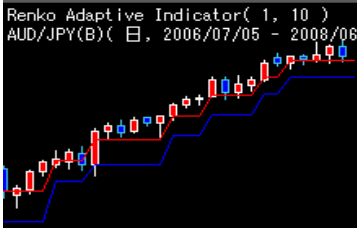

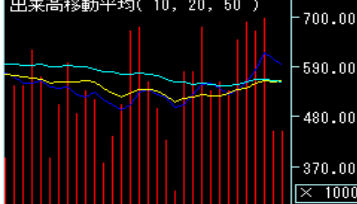
ここで説明しておりますテクニカル指標から導かれる売買シグナルは、お客さまに売買を勧めるものではありません。既知のテクニカル指標と価格情報を元に、売買シグナルを表示しています。また、提供している情報の内容に関しては万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、大和証券は一切責任を負い兼ねます。投資にあたっての最終判断はお客さまご自身の判断をお願いします。

(2011年7月)

No.	分類	指標名 (イメージ)	概要	使用方法・見方
5	トレンド系	05.一目均衡表 	一目山人(いちもくさんじん)が考案したテクニカル分析で、相場は買い方と売り方の均衡が破れた方に動くという考え方に基づいています。一目均衡表の相場理論には「時間論」「波動論」「水準論」の3つがあり、特に「時間論」を重要視しています。相場の本質的動因が時間にあるという考えのチャートです。 基準線、転換線、先行スパン、遅行スパンを基本的な指標として、交わりや線で囲んでできる雲により、売買タイミングを計る手法です。先行スパン1と2の間を塗りつぶしてできる雲(支持帯、抵抗帯)を、相場が支持帯を下に抜けると売りサイン、抵抗帯を上を抜けると買いサインと見ることができます。他にも、転換線が基準線より上にあるときは買い、下にあるときは売りと見るなど、さまざまな読み方があります。	基準線と転換線 基本的には転換線が基準線よりも下にある場合は売りスタンスで、転換線が基準線を越えてきたら買いスタンスと判断できます。また2つの移動平均線のようなものなので「ダブル・クロスオーバー法」も使えます。短期の転換線が長期の基準線を下から上に突き抜ける場合は「ゴールデンクロス」で、逆は「デッドクロス」とします。さらに終値と転換線だけでも相場判断でき、上げ局面では終値が転換線の上で、下げ局面では転換線の下に推移します。 先行スパン 先行スパン1と先行スパン2の2本の線で囲まれた範囲が抵抗帯となりますが、相場がその抵抗帯より上にあれば「押し目買い基調」、下にあれば「戻り売り基調」と言えます。 遅行スパン 26日移動平均を下から上抜いた時は買いシグナル(寸前で上抜けなければ下落基調)、逆に遅行スパンが上にあり下から下に抜いた時は売りシグナルとされます(寸前で下に抜けなければそのまま上げ基調)。
6	トレンド系	06.エンペロープ 	エンペロープの上下バンドは反転の目安として使用されます。	上下のバンドを越えた時が買いや売りのサインです。
7	トレンド系	07.ピボット・ポイント 	RSIを生んだJ.W.ワイルダー(Welles Wilder)の開発した相場の短期的なサポート・レジスタンスの水準を予測するテクニカル指標です。当初は先物市場のディーラーを中心に活用されていた指標で、主に短期売買向けの指標です。	価格がサポートラインに来たら買いシグナル、レジスタンスラインに来たら売りシグナルです。大きく値幅を狙う場合は、第2サポート(レジスタンス)まで待つなど通常のサポート(レジスタンス)ラインとして使います。
8	トレンド系	08.標準偏差 	ボリンジャーバンドとほぼ同じです。移動平均の期間を揃えると+2 と BollTop(-2 とBollBot)が同じになり、標準偏差分移動したのになります。	2 の範囲内に約95%収まるので、+2 のラインに近づいたら売り、-2 のラインに近づいたら買い、など逆張り手法として使われます。また +/- 2 を超えた時点で順張りポジションを取るという利用法もあります。

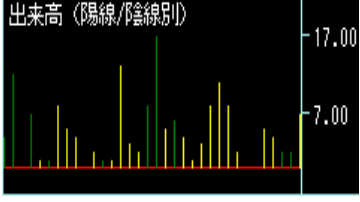
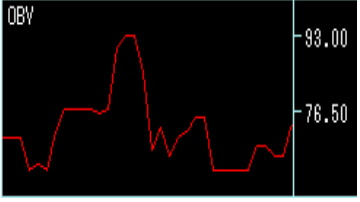
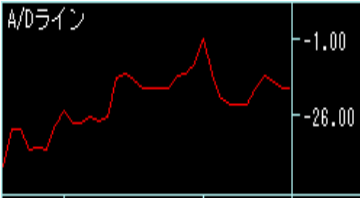
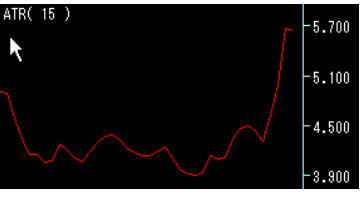
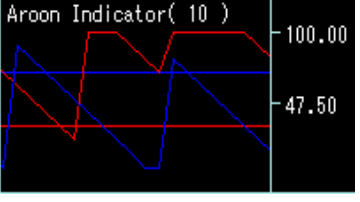
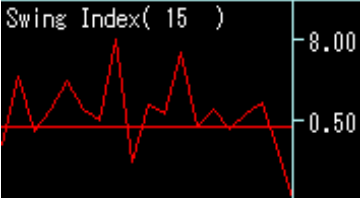
ここで説明しておりますテクニカル指標から導かれる売買シグナルは、お客さまに売買を勧めるものではありません。既知のテクニカル指標と価格情報を元に、売買シグナルを表示しています。また、提供している情報の内容に関しては万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、大和証券は一切責任を負い兼ねます。投資にあたっての最終判断はお客さまご自身の判断をお願いします。

(2011年7月)

No.	分類	指標名 (イメージ)	概要	使用方法・見方
9	トレンド系	09.ケルトナー・チャンネル 	シカゴ穀物貿易業者のチェスター・ケルトナー (Chester W. Keltner) によって紹介されたテクニカル指標です。ボリンジャーバンドやエンベロープと似た価格チャンネルを描く指標で、単純移動平均にATR(Average True Range: アベレージ・トゥルー・レンジ)をn倍したものを足した線と引いた線の2本を使用し、上限を価格が上に抜けた時に買い、下限を価格が下に抜けた時に売る、というトレンドフォローに使用します。パラメータにATRを使用しているため、ATRバンドとも呼ばれます。	買いシグナル: 上部バンドを上抜けた時は、上方への強いトレンドが発生しているので中間線をサポートとしてトレンドフォローします。 売りシグナル: 下部バンドを下抜けた時は、下方への強いトレンドが発生しているので中間線をレジスタンスとしてトレンドフォローします。
10	トレンド系	10.ハイ・ローチャンネル 	一定期間内の最高値および最低値をチャート上に2本のチャンネル(線)で表示します。	買いシグナル: 現在終値が上側チャンネルを上抜けた時 売りシグナル: 現在終値が下側チャンネルを下抜けた時
11	トレンド系	11.Variable Volatility Stops (バリエブル・ボラティリティ・ストップス) 	終値を追従(トレーリング)するボラティリティストップを表示します。ボラティリティストップとは、最高終値からn倍したATR(アベレージ・トゥルー・レンジ)を引いた額(買いの場合)、もしくは最安終値からn倍したATR(アベレージ・トゥルー・レンジ)を足した額(売りの場合)でのストップを指します。	現在終値とボラティリティストップがクロスした場合は、パラボリックSaRのようにストップラインの上下が反転します。 買いシグナル: 現在終値がボラティリティストップラインよりも上の場合、一定期間の最高終値を追従してストップも上昇 売りシグナル: 現在終値がボラティリティストップラインよりも下の場合、一定期間の最安終値を追従してストップも下降
12	トレンド系	12.時系列練行足 	練行足のように、値幅を単位として、上下2本の線を更新していきます。線の初期値は高値と安値で、終値が「上の線 + 値幅」より高くなった場合、値幅 × 整数分、線を更新します。この場合、下の線は、値幅分、上の線に連れて動きます。	買いシグナル: 上側の線を上抜けた場合 売りシグナル: 下側の線を下抜けた場合
13	トレンド系	13.出来高 	取引所で売買が成立した数量(枚)です。	一般的に、出来高に関して以下のことが言えます。 ・出来高が減少してきた状態から増加傾向を見せてきたら、目先反転の兆候 ・急騰した高値圏で出来高が急減した場合、目先売り逃げの天井圏 ・出来高移動平均線を上回る日が多く続く場合、先行き上昇が予想される
14	トレンド系	14.出来高&移動平均 	出来高と、出来高の移動平均を描画する指標です。	出来高移動平均線の短期線と中期線のゴールデンクロスは目先の買いシグナル、デッドクロスは売りシグナルになると言われています。

ここで説明しておりますテクニカル指標から導かれる売買シグナルは、お客さまに売買を勧めるものではありません。既知のテクニカル指標と価格情報を元に、売買シグナルを表示しています。また、提供している情報の内容に関しては万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、大和証券は一切責任を負い兼ねます。投資にあたっての最終判断はお客さまご自身の判断をお願いします。

(2011年7月)

No.	分類	指標名 (イメージ)	概要	使用方法・見方
15	トレンド系	15.出来高(陽線/陰線別) 	4本値の陽線、陰線に合わせて、出来高の色を変更した指標です。	見方は「出来高」と同様ですが、陰線、陽線の判断ができる分、「出来高」より見やすいといわれます。
16	トレンド系	16.OBV 	OBVは、「On Balance Volume(オン・バランス・ボリューム)」の略称で、「出来高は価格に先行する傾向がある」という考えに基づいて開発された指標です。	価格の先行指標とされていることから、一般的に以下のことが言えます。 ・上昇トレンド時にOBVが上昇傾向にある時、現在の上昇トレンドはまだ継続すると判断 ・上昇トレンド時にOBVが下降傾向あるいは横ばいになった時、上昇トレンドの終わりを示唆 ・下降トレンド時にOBVが下降傾向にある時、現在の下降トレンドはまだ継続すると判断 ・下降トレンド時にOBVが上昇傾向あるいは横ばいになった時、下降トレンドの終わりを示唆
17	トレンド系	17.A/Dライン 	A/Dラインは「Accumulation(集積)/Distribution(離散)ライン」の略称で、米国のマーク・チャイキン(Marc Chaikin)によって開発された出来高関連指標です。	価格が上昇している最中にA/Dラインが下落した時や、価格が下落している最中にA/Dラインが上昇してきた時などをトレンド転換のシグナルとして使います。
18	トレンド系	18.Average True Range (アベレージ・トゥルー・レンジ) 	ストップ幅の目安や、ポジションサイズの決定など様々な用途に使える指標です。	買いシグナル: 当日の終値が期間中(n日間)の最も安い終値にn日間のアベレージ・トゥルー・レンジの3倍を加えた価格を上回った時 売りシグナル: 当日の終値が期間中(n日間)の最も高い終値からn日間のアベレージ・トゥルー・レンジの3倍を引いた価格を下回った時
19	トレンド系	19.アローンインジケータ 	サンスクリット語で「夜明けの最初の光」の意味です。1995年にトゥーシャー・シャンデ(Tushar S. Chande)が開発。 一般的に14日で計算され、トレンドが出ているのか出していないのか、また出ている場合のその強弱を判断します。	Aroon(up)・Aroon(down)共に低いパーセンテージで乖離が大きい時は、はっきりとしたトレンドが出ていないと判断します。 Aroon(up)が50%を下回った場合は目先の上昇基調に勢いがなくなった事を意味し、同様にAroon(down)が50%を下回った場合は目先の下降基調に勢いがなくなった事を意味します。
20	トレンド系	20.スイングインデックス 	切り上がり、切り下がりなどの動きから、価格の真の動きを抽出すべく開発された指標です。	相場の動きに敏感に反応するので、中長期でのポジション保持よりも、短期での売買シグナルとして利用されます。 売られすぎ(買いシグナル): スイングインデックスの値が、-100に近づく時 買われすぎ(売りシグナル): スイングインデックスの値が、+100に近づく時

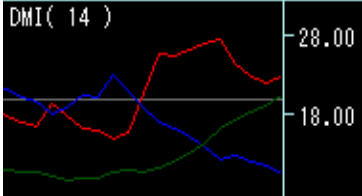
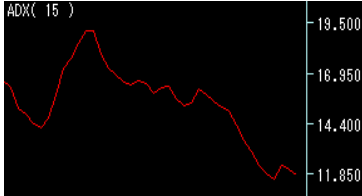
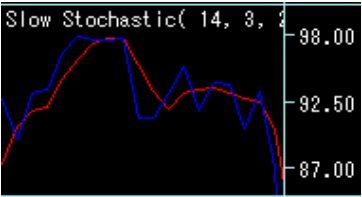
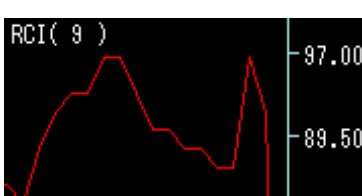

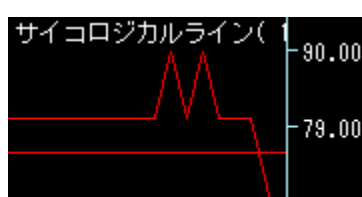
ここで説明しておりますテクニカル指標から導かれる売買シグナルは、お客さまに売買を勧めるものではありません。既知のテクニカル指標と価格情報を元に、売買シグナルを表示しています。また、提供している情報の内容に関しては万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、大和証券は一切責任を負い兼ねます。投資にあたっての最終判断はお客さまご自身の判断をお願いします。

(2011年7月)

No.	分類	指標名 (イメージ)	概要	使用方法・見方
21	トレンド系	21. バランスオブパワー 	ブルおよびベアの強度を測定する指標です。特に価格が極端に一方に振れている相場で、まだトレンドが継続するのか、あるいは天井(底)なのかどうかを判断する時に使うと効果的です。	バランスオブパワー (Balance of Power) は、始値・高値・安値・終値のみが基準となり、一日の中でつかなかった価格については考慮しません。そのため、例えば前日から窓を開けて始まっていたりする場合などでは 実際の相場の勢いが反映されにくくなります。 この点は、一日の変動幅を全く考慮しないテクニカル指標 (例: ストキャスティクス、RSI、出来高) と組み合わせることで、よりトレンド継続・転換の確認に効果的です。
22	トレンド系	22. ボラティリティ 	ボラティリティ (値動き) の大きさを % で表示します。ボラティリティ拡大時に上昇し、ボラティリティ縮小時に下降します。	ボラティリティが大きいと値動きが激しいとみなします。
23	トレンド系	23. オートマチックトレンドライン 	過去の価格の上昇 / 下降の転換ポイントを直線で繋げることでトレンドライン (支持線、抵抗線) を描画します。当該ラインと現在の価格より、売買タイミングを推測する指標です。	ラインと現在の価格より、売買タイミングを推測します。
24	トレンド系	24. 転換点 	一定期間内の最高値および最低値の価格・日付を、チャート内の最高値および最低値の発生箇所付近に表示します。	上昇基調時に安値の値を結ぶと上昇トレンドラインとして利用でき、下降時に高値の値を結ぶと下降トレンドラインとして利用できます。トレンドの転換を見るのにも使えます。
25	オシレータ系	01. RSI 	RSIとは「Relative Strength Index (リラティブ・ストレngth・インデックス)」の略称で、0から100までの数値で買われすぎ/売られすぎを判定する指標です。	70% ~ 100% : 買われすぎ (売りシグナル) 0% ~ 30% : 売られすぎ (買いシグナル)
26	オシレータ系	02. MACD 	MACDとは「Moving Average Convergence Divergence (ムービング・アベレージ・コンバージェンス・ダイバージェンス)」の略称で、トレンドの方向性や転換点を見極めるための指標です。	MACDでは、終値を用いて、直近の値に重み付けをする平均である指数平滑移動平均 (EMA: Exponential Moving Average) を算出します。 MACD=短期指数平滑移動平均 (短期EMA) - 長期指数平滑移動平均 (長期EMA) MacdMA (シグナル) はMACDのEMAを9日 (初期設定) の移動平均線で表したものです。 EMAでは新しいデータほど重要視されますが、それほど古いデータでもわずかに影響が残るため、算出に過去データを多く用いれば用いるほど数値の精度が高まります。但し、ある程度以上の過去データを用いれば、無限大の過去データを用いた場合と算出結果は大差がないと言われています。 例) 過去10日の終値のEMAを算出する場合、3倍の過去30日分の終値を用いて算出すれば、過去100日分を用いた場合と算出結果に大差はない。

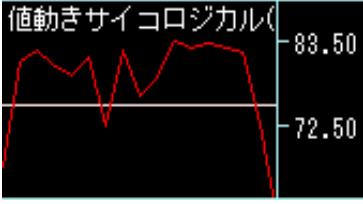
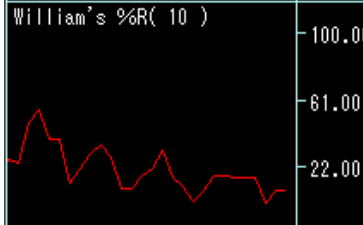
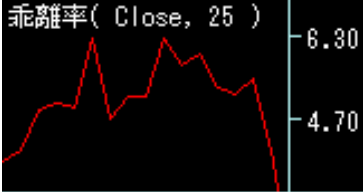
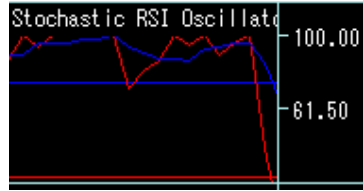
ここで説明しておりますテクニカル指標から導かれる売買シグナルは、お客さまに売買を勧めるものではありません。既知のテクニカル指標と価格情報を元に、売買シグナルを表示しています。また、提供している情報の内容に関しては万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、大和証券は一切責任を負い兼ねます。投資にあたっての最終判断はお客さまご自身の判断をお願いします。

(2011年7月)

No.	分類	指標名 (イメージ)	概要	使用方法・見方
27	オシレーター系	03.DMI 	DMIは「Directional Movement Index (ディレクショナル・ムーブメント・インデックス)」の略称で、RSIと同じくJ.W.ワイルダー (Welles Wilder) が考案したテクニカル分析ツールです。トレンドの方向性とその強さを指数化して測定しようとしたもので、トレンドフォローを目的としています。	ADXの値が低水準にある時はトレンドがないと考え、ADXが陽転した時をトレンドの発生地点と判断し、頭打ちになればトレンドの終了と見なします。 +DIと-DIの交差は売買のポイントで、+DIが-DIを上抜く形で交差すれば買い、逆なら売りのシグナルとなります。 この指標はトレンドの方向を見るのに適していますが、トレンドの強さを見るのには不向きです。(なぜなら毎日1円の値上がりと毎日10円の値上がりでも同じ結果となるためです)
28	オシレーター系	04.ADX 	ADXとは「Average Directional Movement Index (アベレージ・ディレクショナル・ムーブメント・インデックス)」の略称で、トレンドの強さを測定する指標です。	通常、DMI(ディレクショナル・ムーブメント・インデックス)と合わせて使用するのが一般的で、ADXが上昇しているときは上昇トレンドが継続中、ADXが下落しているときは下落トレンドが継続中といえます。
29	オシレーター系	05.スロー・ストキャスティクス 	ストキャスティクスはジョージ・レーン (George Lane) により開発されたオシレーター系指標で、買われすぎ・売られすぎを読み取る指標です。	買いシグナル: %D・%SD共に20%以下の時に、%Dが%SDを上抜けた時 売りシグナル: %D・%SD共に80%以上の時に、%Dが%SDを下抜けた時
30	オシレーター系	06.RCI 	統計学から生まれたオシレーター系の分析法で、時間の経過と値段の上下に順位をつけ、これら2つのデータ関係を指数化したものです。	指数は一定期間内に連続して上昇したら+100%、連続して下落したら-100%になり、この数値間を滑らかに推移します。 これは「相場は上げ続けると下がる可能性が高く、下げ続けると上がる可能性が高くなる」という考え方に基づいたものです。ただし値幅は加味していないため日々の上昇、下落の大小はRCIには反映されません。
31	オシレーター系	07.モメンタム 	モメンタムとは「勢い」「はずみ」と言う意味で、相場の勢いを計るテクニカル指標です。	一般的に 買いシグナル: モメンタムが0ラインを下から上に抜いた時 売りシグナル: モメンタムが0ラインを上から下に抜いた時 とされています。 モメンタムの角度がその時のマーケットの勢いを表しています。
32	オシレーター系	08.サイコロジカルライン 	買われすぎか、売られすぎかを単純数値化し、一定期間上がっている場合に、そろそろ下がるのではないかと、このような、市場心理をはかり投資指標としたものです。	売りシグナル: 75%以上 買いシグナル: 25%以下 サイコロジカルラインは値幅を全く考慮していません。

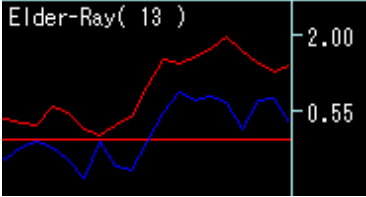
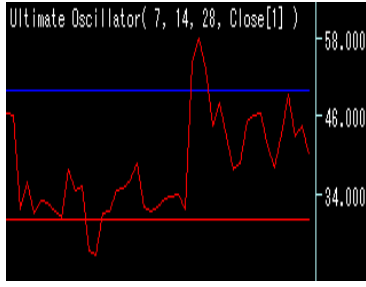
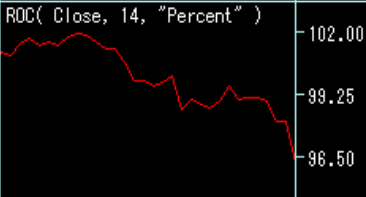
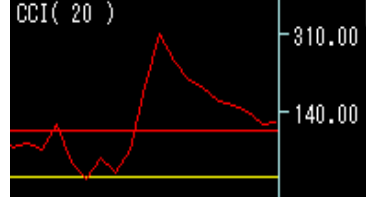
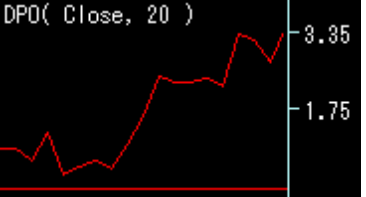
ここで説明しておりますテクニカル指標から導かれる売買シグナルは、お客さまに売買を勧めるものではありません。既知のテクニカル指標と価格情報を元に、売買シグナルを表示しています。また、提供している情報の内容に関しては万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、大和証券は一切責任を負い兼ねます。投資にあたっての最終判断はお客さまご自身の判断をお願いします。

(2011年7月)

No.	分類	指標名 (イメージ)	概要	使用方法・見方
33	オシレーター系	09.値動きサイコロジカル 	通常のサイコロジカルラインに値動きを加味したものです。他のテクニカル指標の補足的な役割として使われることが多いです。	売りシグナル: 75%以上 買いシグナル: 25%以下 サイコロジカルラインは値幅を全く考慮していません。 日数のNは、一般的には12日を使うことが多いです。
34	オシレーター系	10.ウィリアムズ%R 	ラリー・ウィリアムズ(Larry Williams)が開発したオシレーター系テクニカル分析で、ある期間内で現在の価格がどの程度の位置にいるのかを知る指標です。逆張り系のテクニカル分析指標とされています。	ウィリアムズ%Rは計算式の関係上、0~-100の範囲内で推移し、-20%以上を買われすぎ、-80%以下を売られすぎと読みます。 ウィリアムズ%Rは、計算式が単純なため、いわゆる「ダマシ」が多いという特徴があります。また、期間Nを短く取りすぎると小幅な動きになったり、逆にシグナルが乱発し、「ダマシ」が増えるので注意が必要です。そのため、ウィリアムズ%Rは他の指標との併用で効果が発揮できるとされています。
35	オシレーター系	11.移動平均乖離率 	移動平均と終値がどれだけ離れているかを数値として表した指標です。	「移動平均線からの大幅な乖離はやがて修正される」という経験法則に基づいた指数分析です。例えば、5日移動平均線で「+10%になったら売り、-10%になったら買い」、25日移動平均線で「+30%になったら売り、-30%になったら買い」といった投資手法があります。ただし、移動平均値が上昇中であるか下降中であるかは全く考慮していません。また、移動平均線から何%離れたからといって、必ず逆方向に動くとは限りません。 移動平均乖離率は移動平均線と終値がどれだけ離れているかを数値化しただけの指標ですので、移動平均乖離率だけで長期的なトレンドを判断することは困難です。主として利益確定の時期を判断する時に使われます。
36	オシレーター系	12.Stochastic RSI Oscillator (ストキャスティックRSIオシレーター) 	1994年にトゥーシャー・シャンデ(Tushar S. Chande)とスタンリー・クロール(Stanley Kroll)が開発した指標です。ストキャスティクスとRSIを合わせてできた指標で、RSIの値をストキャスティクスの式に入れて計算したものです。	買いシグナル: ・20%以下(売られ過ぎの水準)から20%の上に上昇してきた時 ・50%を上回れば、上昇トレンドの可能性が高まります ・強い上昇トレンド: 80%以上(買われ過ぎ水準)を上回り、100%へ接近する局面 売りシグナル: ・80%以上(買われ過ぎの水準)から80%の下に下落してきた時 ・50%を下回れば、下落トレンドの可能性が高まります ・強い下落トレンド: 20%以下(売られ過ぎ水準)を下回り、0%へ接近する局面

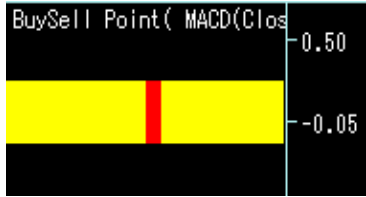
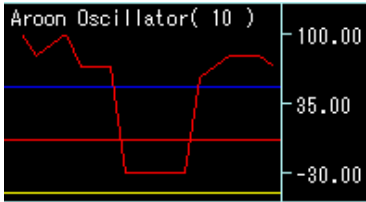
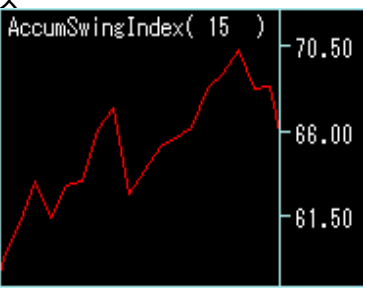
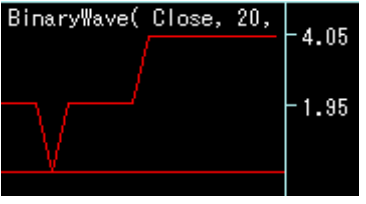
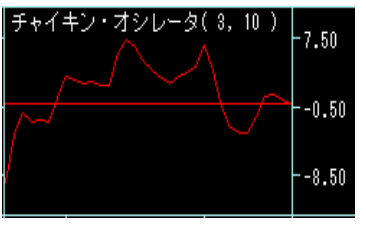
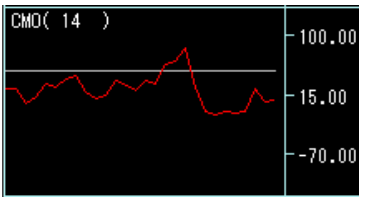
ここで説明しておりますテクニカル指標から導かれる売買シグナルは、お客さまに売買を勧めるものではありません。既知のテクニカル指標と価格情報を元に、売買シグナルを表示しています。また、提供している情報の内容に関しては万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、大和証券は一切責任を負い兼ねます。投資にあたっての最終判断はお客さまご自身の判断をお願いします。

(2011年7月)

No.	分類	指標名 (イメージ)	概要	使用方法・見方
37	オシレータ系	13.エルダーレイ 	エルダー線は、市場の表面化のブルとベアの勢力構造を示します。買いか売りのポジションを仕掛けて手じまいする時期を示します。	買いシグナル: 上昇トレンドで、ベアパワーが負に転じ、その後上向くとき 売りシグナル: 下げトレンドで、ブルパワーが正に転じ、その後下向くとき 利食いすべきところ: 移動平均からの距離が平均のブルパワーか、ベアパワーに等しくなるところ
38	オシレータ系	14.アルティメットオシレータ 	3つの期間が異なるオシレータの加重平均を%で示します。	30%以下: (売られすぎのため) 売り決済 35%以下: 買いストップロスを設定 50%以下: 売り 50%以上: 買い 65%以上: 売りストップロスを設定 70%以上: (買われすぎのため) 買い決済 買い逆行: 株価は下降トレンドだがアルティメットオシレータは上昇トレンドのときは買い 売り逆行: 株価は上昇トレンドだがアルティメットオシレータは下降トレンドのときは売り
39	オシレータ系	15.ROC 	ROCとは「Rate of Change (レート・オブ・チェンジ)」の略称で、オシレータ系テクニカル分析のひとつです。ある期間における価格の変化率を見る指標です。	・100以上の時は強気相場 (100を下から上に抜いた時は買いシグナル) ・100以下の時は弱気相場 (100を上から下に抜いた時は売りシグナル) ROCの線の角度がその時のマーケットの勢いを表しているため、合わせて考慮します。 価格は上昇(下降)しているがROCは下降(上昇)するという「逆行現象」があります。相場が天井圏/底値圏で推移している時に、この逆行現象があると信頼度が高いと言われています。
40	オシレータ系	16.CCI 	CCIとは「Commodity Channel Index (コモディティ・チャンネル・インデックス)」の略称で、ドナルド・ランバート (Donald Lambert) が開発した指標です。元々は商品相場などで周期的な相場の転換点を探る為に開発された指標ですが、現在は商品以外の金融商品などにも幅広く用いられています。値動きの振幅に対して現在の乖離(かいり)がどの程度なのかを指数化したもので、売られすぎ買われすぎを判定します。	CCIは基本的には-100% ~ +100%の間で動きます。売買ポイントとしては、-100%・+100%を交差するタイミングです。 買いシグナル: -100%以下で推移していたCCIが-100%を上抜いた時 売りシグナル: +100%以上で推移していたCCIが+100%を下抜いた時
41	オシレータ系	17.DPO 	DPOとは「Detrended Price Oscillator (デトレンドッド・プライス・オシレーター)」の略称で、トレンドを排除した価格オシレーターです。価格推移からより長期のトレンドに起因する動きを排除することで、より短期の動きを明確に捉えようとする指標です。	比較的短期の価格変動によって形成されるピークやボトムを捉えます。 DPOが、過去のレンジと比較して、安値圏にあるときが買いシグナル、高値圏にあるときが売りシグナルとなります。 ダイワのトレーディングボード365FXではNが20日で設定されているため、DPO = 当日終値 - 11日前の20日移動平均で求められます。

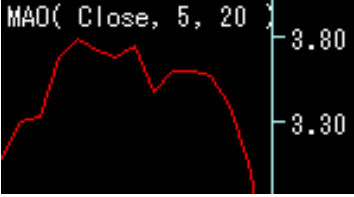
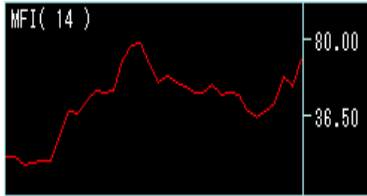
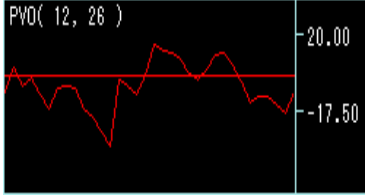
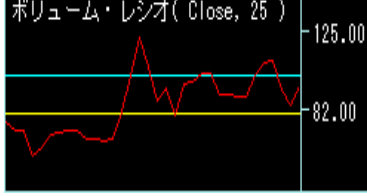
ここで説明しておりますテクニカル指標から導かれる売買シグナルは、お客さまに売買を勧めるものではありません。既知のテクニカル指標と価格情報を元に、売買シグナルを表示しています。また、提供している情報の内容に関しては万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、大和証券は一切責任を負い兼ねます。投資にあたっての最終判断はお客さまご自身の判断をお願いします。

(2011年7月)

No.	分類	指標名 (イメージ)	概要	使用方法・見方
42	オシレーター系	18.BuySellPoint (バイ・セル・ポイント) 	一定期間内の最高値および最安値をチャート上に2本のチャンネル(線)で表示します。	赤帯: 上向きクロスによる買い(シグナルが出た足で注文) 青帯: 下向きクロスによる売り(シグナルが出た足で注文) 黄帯: 売買せず
43	オシレーター系	19.アールンオシレーター 	トレンドの強弱を判断します。	上下-100~+100、中間0の中を推移表示する形となっています。 0以上は上昇トレンド、0以下は下降トレンドを示唆します。 それぞれ数値が大きくなるほどその方面のトレンドがより強く出ているものと判断します。
44	オシレーター系	20.アキュムスイングインデックス 	スイングインデックスの値を累積した指標です。アキュムスイングインデックスの軌跡は、実際の価格変動と密接に連動します。	・アキュムスイングインデックス > 0: トレンドが強気 ・アキュムスイングインデックス < 0: トレンドが弱気 ・アキュムスイングインデックスが0付近: トレンドがない ・アキュムスイングインデックスにトレンドラインを引くことで、ブレイクアウトの確認に利用できます。 ・アキュムスイングインデックスと日足との間にダイバージェンスが示現 反転のサインとみなす
45	オシレーター系	21.バイナリーウェーブ 	既存の指標 (MACD, Stochastics Slow, ROC, 移動平均線) を合成して作成された指標です。	0を基準とし、0以上は買い信号、0以下は売り信号を示唆します。
46	オシレーター系	22.チャイキン・オシレーター 	米国のマーク・チャイキン (Marc Chaikin) によって開発された出来高関連指標で、A/Dラインの先行指標として開発された指標です。	買いシグナル: オシレーターがゼロラインを下から上に抜けた時 売りシグナル: オシレーターがゼロラインを上から下に抜けた時 A/Dラインとオシレーターの動きの逆行が売買シグナルとなります。
47	オシレーター系	23.CMO 	CMOは、「Chande Momentum Oscillator (シャンド・モメンタム・オシレーター)」の略称で、トゥーシャー・シャンド (Tushar S. Chande) によって考案されたモメンタム系のテクニカル指標です。シャンド・モメンタムはRSIに似た指標ですが、モメンタムを測る際に分子に上昇の値と下降の値両方を用いるため、RSIより純粋なモメンタムを測るインジケーターと考えられています。	他の式の方は-100~+100の間で変動し 買われすぎ(売りシグナル): CMOが+50のラインから上(+50~+100の値のレンジ)の高水準の圏内で推移 売られすぎ(買いシグナル): CMOが-50のラインから下(-50~-100の値のレンジ)の低水準の圏内で推移 と判断できます。

ここで説明しておりますテクニカル指標から導かれる売買シグナルは、お客さまに売買を勧めるものではありません。既知のテクニカル指標と価格情報を元に、売買シグナルを表示しています。また、提供している情報の内容に関しては万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、大和証券は一切責任を負い兼ねます。投資にあたっての最終判断はお客さまご自身の判断でお願いします。

(2011年7月)

No.	分類	指標名 (イメージ)	概要	使用方法・見方
48	オシレーター系	24.MAO 	MAOとは「Moving Average Oscillator (ムービング・アベレージ・オシレーター)」の略称で、長・短期移動平均を活用し、価格の強弱を見る指標です。	MAOの値がプラス圏の時は上昇、マイナス圏の時は下降を辿ることが予測できます。
49	オシレーター系	25.MFI 	MFIとは「Money Flow Index (マネー・フロー・インデックス)」の略称で、資金の流れが売りと買いのどちらに流れているか判断する指標です。価格の変動だけでなく、出来高も考慮されています。	MFIの値は0～100の間で推移します。一般的に ・MFI 20の時は、売られすぎ(買いシグナル) ・MFI 80の時は、買われすぎ(売りシグナル)とされています。
50	オシレーター系	26.PVO 	PVOとは「Percentage Volume Oscillator (パーセンテージ・ボリューム・オシレーター)」の略称で、ROCの出来高版です。現在の価格トレンドの強さを測る指標です。	買いシグナル: 安値圏でボリュームオシレーターが上昇している時(直近の出来高が増えている時) 売りシグナル: 高値圏でボリュームオシレーターが下落している時(直近の出来高が減っている時)
51	オシレーター系	27.ボリューム・レシオ 	前日と比較して上昇した日の出来高合計と下落した日の出来高を指数化し、売られすぎ、買われすぎを測る指標です。	ダイワのトレーディングボード365FXでは350%が買われすぎ、80%が売られすぎのラインとなります。

お取引にあたっての手数料等およびリスクについて

「ダイワ365FX」の取引手数料は、無料です。ただし、売気配と買気配には、差額であるスプレッドがあります。

「ダイワ365FX」を行なうには、証拠金をお預けいただく必要があります。必要となる証拠金の額は、当社が定める計算式によって算出されます。また、必要な証拠金は、通貨ペア(通貨の組合せ)やその通貨の価格によって変化しますので、本取引の額の証拠金の額に対する比率は、常に一定ではありません。

「ダイワ365FX」は、取引対象である通貨の価格変動により取引価格が変動します。また、取引対象である通貨の金利変動により金利差相当額(スワップポイント)が受取りから支払いに転じることもあります。通貨の需給の偏りにより、スワップポイントが金利差を反映せず、買い付けた通貨の対象国の金利が売り付けた通貨の対象国の金利よりも高い場合にもスワップポイントを支払うことになる場合があります。したがって、元本や利益を保証するものではなく、損失が発生することがあります。また、お客さまにお預けいただいた証拠金の額を上回る取引を行なうことができるため、証拠金を上回る額の損失を生じる恐れがあります。

その他ご留意事項

お取引に際しては、必ず「ダイワ365FX」の契約締結前交付書面、口座設定約諾書等、お客さま向け資料の内容をよくお読みください。

商号等：大和証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号

加入協会：日本証券業協会 一般社団法人日本投資顧問業協会 一般社団法人金融先物取引業協会
一般社団法人第二種金融商品取引業協会

ここで説明しておりますテクニカル指標から導かれる売買シグナルは、お客さまに売買を勧めるものではありません。既知のテクニカル指標と価格情報を元に、売買シグナルを表示しています。また、提供している情報の内容に関しては万全を期していますが、その内容を保証するものではありません。万一この情報に基づいて被ったいかなる損害についても、大和証券は一切責任を負い兼ねます。投資にあたっての最終判断はお客さまご自身の判断をお願いします。

(2011年7月)